

千刈狸の呟き

朝○暮○

朝夕ともめっきり涼しくなり、梅雨明けのない中途半端な夏のことはもう忘れたとばかりに澄み切った空はあくまでも高く、朝の冷え込みと日の短さは否応なしに冬に向かう覚悟を要求してくる。この拙文が活字になる頃（なにしろ手書きなものでゴメンナサイ）には鳥海山の初冠雪が見られることであろう。

朝夕と春秋を淡々と重ねているようでも人の世には何らかの変化・兆しがあるようで、このたびの政権交代もそのひとつか。まつりごとには疎い方であるが、朝と夕（暮）に因んで思うところを2, 3述べたい。

『朝三暮四』 トチの実を配るのに3:4だろうと4:3だろうと合わせて7にしかならず、7ではダメで10や12にしないといけないことも承知のはずだが 社会保障費の話である。安定かつ継続的財源の確保は不可欠、はっきりいえば国民の負担増は避けられないはずであるのに誰もそうはおっしゃらない。税金のムダ遣いをなくすのは当然のことで、「埋蔵金」をあてにしたところで長続きはしない。社会福祉目的の消費税を導入するにしろ、社会保険料を引き上げるにしろ、いずれそうなるのに当面消費税は引き上げないなどと目先を変えようとしているだけ。

「給付は多く負担は少なく」などとオイシソウなことは言うべきではなく、国家が社会的連帯の下に最低限の責任を負うから消費税や保険料を上げる、とのメッセージが必要なのだ。日本の消費税率など欧州に比べてはるかに低い。何のために負担するのかをはっきりさせればこそ、納得の上で払うというものだ。

国民の側としてもトチの実をもらう猿と同等に見られてはたまらない。ここはひとつ腹を決めて明日の我身・将来の世代のためにも納得のいく形で負担を覚悟するべきであろう。

もうひとつ気になること。社会保障費のことになると「削る」動きばかりで税金や年金の払い手を「育てる」仕組みへの展望が見えてこないこと。育てることは、例えばスウェーデンが税金で育児・介護施設を増やし、ここに女性を雇用して新しい労働者・納税者を生み出しているのは有名である。

『朝令暮改』 障害者施策についても一言。衆院解散で障害者自立支援法改正案など障害関係の重要法案が軒並み廃案となった。「やはり軽視されているな」というのが正直な感想である。民主党は障害者自立支援法の廃止を公約にしているので施行からわずか3年であえなく終焉をむかえることになる。

障害者自立支援法は障害の種別にかかわらず一元的な福祉サービスを提供することをうたい文句に原則1割の利用者負担で開始されたが、「障害程度区分」の判定が実態と合わないなどの批判が噴出した（このあたりは介護保険の際の「動ける痴呆」の評価の混乱とよく似ている）。そもそも介護保険との統合を想定して制度設計したことへの根強い不満がある。そこで現場はどうなったか？ 孫七山についていえば施設収入が減らされたため大幅な人員削減の憂き目にあい、ケアの低下を招いて住人は肺炎と転倒による骨折にうめくことになり、さらに「生活介護」の者はささやかな仕事（掃除や草むしり）さえ取りあげられて終日うつろな表情でソファに座ってすごす。

これではやっていけないとの国内各施設からの声を集めて課題・改善すべき点をしぼり込んだ上での改正案であったのだが、国会での議論の土俵にすら上がらせてもらえないのかとため息がでる。自立支援法施行のために膨大な資料や会議・研修会に要した労力は何だったんだろう。結局いつも右往左往させられるのは現場の者たちであるのだ。いずれ近いうちに民主党の提唱するところの「障がい者総合福祉法（仮称）」のための現場の苦労は始まる。

ついでにもうひとつ。障害者自立支援法を立案・推進した旗振り役は誰だろう、過日架空の障害者団体の認可にからんだ郵便料金の不正事件で逮捕された厚労省の女性官僚その人である。

『朝蠅暮蚊（ちょうようぼぶん）』 度量の狭い人や小人物がはびこること あえて説明の必要はなし。

（孫七狸）